

授業改善推進プラン〈算数〉

I 算数科における令和元年度授業改善推進プランの検証

取り組みにおける成果と課題

- ◇昨年の課題であった「場面と式の関係」を説明する問題、「伴って変わる数量の関係」の項目ともに改善が見られ、目標値を上回ることができた。
- ◇生活に即した課題設定は今年度も引き続き指導が必要である。また、目標値は達成しているが、基礎計算力は区の平均を下回る項目もある。基礎基本の定着を図る必要がある。

II 算数科における学習効果測定結果の分析

第4学年	第5学年	第6学年
<p>◇教科全体の平均正答率は、目標値、区の平均正答率ともに上回っているため、概ね良好といえる。</p> <p>◇内容別にみると、「あまりのあるわり算」の平均正答率が低い。基礎基本を定着する問題を繰り返し解く活動が必要である。</p>	<p>◇教科全体の正答率は、目標値や区の平均正答率を上回っており、概ね良好といえる。</p> <p>◇内容別にみると、折れ線グラフの傾きから変わり方を読む問題の、目標値や区の平均正答率が低い。基礎基本を定着する問題を繰り返し解く活動が必要である。</p>	<p>◇教科全体の平均正答率は、目標値、区の平均正答率ともに上回っているため、概ね良好といえる。</p> <p>◇内容別にみると、「小数の計算」の小数点を揃えて計算する問題、整数÷小数の問題の平均正答率が低い。基礎基本を定着する問題、繰り返し問題を解く活動が必要である。</p>

III 結果に基づいた授業改善のポイント

- ◇習熟度に応じた課題や発問、教材の工夫、細やかな指導、一人一人が学ぶ喜びを味わうことができるような指導方法を工夫していく。
- ◇活用力を身に付けるために、生活に即した課題設定、提示をしていく。
- ◇「数学的な考え方」の力を付けていくために、既習事項を用いて、自力で解決していけるよう、問題解決型の学習を多く取り入れていく。
- ◇区のステップ学習シートを有効に活用し、単元が終わる度に、たしかめテストを行い、点数が8割に満たなかった児童へのフォローアップを行っていく。
- ◇基礎基本を定着する問題、繰り返し問題を解く活動を取り入れ、計算能力の向上を図る。

IV 算数科の授業改善策

【思考・判断・表現】

(低学年)

- 算数ブロックやおはじきなどの具体物や図などを用いた活動を多く取り入れることで、数の数え方や計算の仕方について考える力を養う。
- 内容を的確に捉え、正しく立式するために、文章中のキーワードや数字にマーキングをさせる。

(中学年)

- 文章題での立式の意味をきちんと理解できるように、教科書の挿絵を使ってどんな場面か話し合わせたり、簡単な絵や図を描かせたりする。
- 長さや重さなどの学習で身近なものを計測する活動を取り入れ、児童が量感を養うことができるように指導する。

(高学年)

- 自分と友達の考えを比べながら聞き、よりよい考え方を見つけられるように指導する。
- 自分の考えや友達の考えを図や表、短い文を使って分かりやすく表し、説明させるようにする。

【技能】

(低学年)

- キーワードの掲示やマーキングをすることにより、加法や減法の式に表すことができるように指導する。
- 大きな数を正確に数えられるようにするために、10ごとのまとまりを丸で囲むように指導していく。
- 長さを正確に測ったり、直線を引いたりすることができるように、目盛りの読み方や直線のひき方の練習を繰り返し行い、ものさしの使い方に慣れさせる。

(中学年)

- 計算の仕組みについて「分かる」ことも大切だが、「できる」ことの方が大切だと考える。計算の手法をテンポよく教える。単元を貫く「基本型」を指導前に教師間で確認する。
- 文章問題では自分で図を書く時間を設けることで、既習の図を用いて場면을正しく理解する力を付けさせる。

(高学年)

- 立式の前に数直線を使って問題場면을捉えさせ、比較量や基準量の関係を正しく理解させる。さらに、考え方を言葉や文章で説明させる機会を増やし、理解の定着を図っていく。
- 区のステップ学習シート、習熟度別学習などを有効に活用しながら復習の時間も取り入れ、既習事項を確実に身に付けさせる。

【知識・理解】

(低学年)

- 具体物を操作させ、数の読み方や表し方、数の構成や系列、順序、大小などを理解させる。
- 「時こくと時間」の単元で、「時刻」と「時間」の意味をしっかりとさえるために、生活の中で「時刻」と「時間」を意識して使い分けて話すなどして、用語の使い方を正しく理解させる。
- くり返し計算カードを用いて、速く正確に計算できるようにさせる。

(中学年)

- 長さや重さの単位換算を繰り返し復習し、確実に定着させる。
- 課題を工夫し、図や絵、数直線で表現し、考える活動を多く取り入れる。
- 個に応じた指導の充実を図る。(ヒントカードや授業形態の工夫)
- 基礎・基本の定着をしっかりと図っていくために、繰り返し既習事項の確認を行っていく。特に基礎計算力の向上を図り、九九などを繰り返し復習させる。

(高学年)

- 基礎・基本の定着をしっかりと図っていくために、繰り返し既習事項の確認を行っていく。
- 数量の関係を正しくとらえられるように、言葉の式や数直線などをいつも使えるように指導していく。また、一般化することで整数だけでなく、小数・分数の場合にも計算の仕組みや方法が活用できることを理解させ、繰り返し復習させる。